

農業問題と対策について

(質問) 平成以降生産者の高齢化や後継者不足が進みさらに資材や肥料などが高騰している中、本年の米価と高温対策は。

(答弁) 30年前と比較して農家数が5割強、耕地面積は約2割減少した。稲作については、高温に強い品種の「三重23号」が平成24年に誕生し、一等米となった比率は95%と非常に高い。国において米、野菜など一定の品目を対象に生産、集出荷、卸売、小売などの実額コストを算出し物価統計などを反映させた価格形成について協議がなされており、新しい制度設計の作業が進められている。



共生社会実現の推進について

(質問) 重層的支援体制整備事業の本市の取り組み状況と課題について尋ねる。相談員の交代による途切れのない相談体制について問う。

(答弁) 重層的支援体制整備事業は、複合的な福祉課題や制度のはざまにあるニーズに対し、包括的かつ継続的な支援を目的に実施している。支援機関が相談を断らずに受け止め、地域の関係者とも連携を図り支援体制を構築し、属性を問わない相談体制、参加支援、地域づくり支援を柱に取り組んでいる。支援が相談員の交代によって途切れないように内容などを記録、情報共有し対応している。



自治体DXについて

(質問) 住民ニーズの多様化に対応するため、行政手続きや窓口業務のオンライン化などフロントヤード改革を進め、住民の利便性向上を図ると同時に庁内業務効率化を行う必要があるが、市の取り組みは。

(答弁) 電子申請など約170件をオンライン化し、マイナンバーカードの活用や決済システムの導入を進めていく。またノート型パソコンの導入によって、DX推進に不可欠な職員の意識改革を促す。さらに現在は部分的に留まる無線LANの整備を今後検討していく。



その他の質問 ○公共施設マネジメント

生活保護行政のあり方について

(質問) 直近の裁判は3件とも敗訴し、国家賠償請求もされている。2019年の申請時の顔写真撮影事件や、今回の財布の中身確認問題、判決を正しく受け止めないなど、本市の生活保護問題は根深く硬直的な組織風土である。根本的な運用・人権意識改善には、内部検証だけでなく第三者委員会を設置し改善計画など報告すべき。

(答弁) 裁判をとおして、既に運用の見直しを講じており、運用全般についても随時改善を図っているため、第三者委員会を設置する必要はないと考えている。



その他の質問 ○エアコン購入・設置の補助

リニア中央新幹線計画について

(質問) リニアの品川ー名古屋間の工事は、工事「未定」が4区間もあるなど大きく遅れている。JR東海はまずは品川ー名古屋間を開業、その後名古屋ー大阪間を建設としており、三重県期成同盟会が要望する最速2037年開業は不可能、「三重県駅」の決定も先送りになる。現状の進捗実績に沿った計画にすべきではないか。

(答弁) 本市としては、早期全線開業に向けて県期成同盟会を通じて要望し、品川ー名古屋間の先行開業を見据えた交通ネットワークの形成を関係団体と協力して目指す。



その他の質問 ○石薬師小の屋内運動場

鈴鹿市の都市計画について

(質問) 人口減少に当たり、鈴鹿市南部の土地利用について、都市計画の方針を問う。

(答弁) 鈴鹿市都市マスタープランにおいて、南部地域には、スポーツ・レクリエーションゾーン、既存工業ゾーン、市街地形成検討地区、新土地需要エリアなどを設定している。今後も、多様な都市活動や交流の創出・活性化と、新たな産業の育成・立地推進に向け、鈴鹿市都市マスタープランにおける都市づくりの方針に基づき、南部地域の土地利用を進めていきたいと考えている。



その他の質問 ○鈴鹿市の道路行政